

経営かじ取りに不可欠

海上コンテナ輸送のスガヌマトランスポート(宮本徹夫社長、東京都千代田区)は、グリーン経営認証の取得など環境対策を充実させている。

1997年の京都議定書の採択、2002年の政府の地球温暖化対策推進大綱など、わが国では各界挙げて環境対策に取り組む機運が高まっている。同社の属するエス・ジーホールディングスグループは「環境対策はコストではなく、経営に不可欠な要素」との方針を掲げており、その方針に

スガヌマトランスポート

基づき、同社ではグリーン経営認証を取得。東京都トラック協会(星野良三会長)のグリーン・エコプロジェクトにも参加している。

こうした取り組みにより、エコドライブ、アイドリング・ストップなどスタップの環境対策への意識が浸透。運転業務だけでなく、環境保全全般に対し視野が広がり、荷主や近隣住民への配慮も生まれ、全体のモチベーションが向上。

ハード面の対策では、車両は全て環境対応車に入れ替えた。デジタルタコグラ

めからグループ会社が共同開発中の水素を利用した燃費改善装置「OHハイブリッドシステム」を実験的に導入。実用化に向けデータを収集しており、保有する大型車両も多いため、燃料高対策として効果に期待を寄せる。

さらに、環境対策の強化により、事故が減少するという副次的な効果が生まれた。安全性優良事業所認定(Gマーク)も取得しており、グリーン経営認証、グリーン・エコプロジェクトへの参加と併せ、環境と安

燃費改善装置を実験導入

フも導入し、燃費管理を徹底している。

また、軽油価格が高止まりしているため、コスト初

「密なコミュニケーションを重視している」と宮本社長

全対策をリンクさせた経営を進めていく考えた。宮本社長は「グリーン経営認証取得を取引条件に含める荷主も出てきている。環境対策は、経営のかじ取りに不可欠。ドライバーへの無線連絡でも、日々、環境・安全に関する指導を含めるなど、密なコミュニケーションを重視している」と話している。

(鹿野島 智子)

東日本大震災や原子力発電所事故を契機に、エネルギー政策の在り方やワークスタイルの変革がかつてないほど議論されている。猛暑と電力不足が予想される中、環境経営のトップランナー事業者は、様々なツールを駆使して地球環境保全を後押しする取り組みを展開中だ。